

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270500622		
法人名	有限会社 ころこ		
事業所名	グループホーム ころこ		
所在地	青森県五所川原市大字桜田字鴻ノ巣431-1		
自己評価作成日	平成28年7月8日	評価結果市町村受理日	平成28年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成28年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月、外食日や外出日を決めて、入居者が自分で食べたい物を決めたり、行きたい所を決めて楽しむ機会を作っています。 毎月、各利用者様の誕生日には手作りケーキを作り、皆さんでお祝いしています。 少しのスペースですが、ミニトマトやピーマン、花等を植えて、水やりや収穫をして、外へ出る機会を作るようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当時の事業主の母が認知症になり、母を地域と関わりながら生活させたいという思いから設立されたホームであり、その思いは、現在の管理者や職員に受け継がれ、この地域に無くてはならないホームとして機能している。 日頃から地域住民との密接な関わりを大切にしており、隣近所はもちろんのこと、近くの小学校とも交流があり、世代を超えた交流が行われている。 また、ホームは職員が生き生きと働くことができる施設としても機能しており、重要な役割を担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が地域の一員として、積極的に関わりが持てるよう支援に努めています。理念を全職員で話し合い、決めています。近隣の小学校の運動会・学習発表会等へ参加し、交流を図っています。	ホーム独自の理念を作成し、玄関前の廊下や事務室、共用スペース、職員休憩室に掲示して、職員が常に理念を意識しながら業務に従事できるようにしている。職員は、利用者が誇りや喜びを感じることができるよう、日々、理念を反映させた支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を開催した際、情報交換や、気軽に立ち寄っていただけるよう声がけをしています。近隣の方からの認知症や施設入所の相談に対応しています。	地域の駐在所の巡査が運営推進会議のメンバーとなっており、日頃から立ち寄ってくれる他、ホームの両隣の方は毎日のように気軽に話しかけてくれる環境にある。近隣の小学校とも交流があり、運動会や学習発表会に招待をいただき、利用者に喜ばれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方からの認知症の相談や見学等には、その都度、対応しています。外部の方の受け入れの際は、入居者のプライバシーに配慮しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しています。報告書は全職員が目を通して、今後のケアに反映できるよう話し合っています。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、利用者の暮らしぶりやホームの行事・研修等、様々な報告を行っている。メンバーからは今後のホームの取り組みについて活発に意見が出されており、どのような些細な意見も拾い上げて、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価の結果を提出しています。運営推進会議の際、事業報告を行い、相談やアドバイスを受けています。	市内のグループホームの様子や空き状況等について、メールで連絡を取り合う体制が取られている。また、自己評価及び外部評価結果や目標達成計画を提出・報告し、市から指導を受け、適正なサービスを行うことができるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、日々のケアを提供しています。	マニュアルを整備している他、内外の研修等により、身体拘束の内容やその弊害等について、全職員が理解を深めるように努めている。ホームでは、身体拘束は行わないという姿勢を徹底し、日々の支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、高齢者虐待となる行為を学び、日々のケアの中で行っていないか等、全職員で話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度についての勉強会・研修に参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、本人や家族等に事業所の理念等、ケアの方針や取り組み等について説明し、本人や家族等の疑問・不安については、十分に話し合いを行っています。また、退居先で安心した生活を送れるように、情報提供を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、気軽に相談できる雰囲気づくりに努めて、入居者の言動を職員間で報告し合い、安心した生活を送れるよう話し合っています。家族へは面会時や電話連絡にて報告し、気軽に意見・苦情等を出してもらえよう働きかけています。	常日頃から、利用者や家族と何でも気軽に相談できる関係づくりに努めている他、各居室に意見用紙を設置する等、意見を出しやすい環境づくりに取り組んでいる。また、出された意見や苦情等については、管理者及び職員で話し合い、速やかな対応ができるよう体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	こころ会議の他、随時、意見や提案を聞く機会を設けています。	「こころ会議」を開催し、業務の改善策について協議する機会を設けている他、申し送り時でも職員の意見を聞き、より良い支援ができるよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、健康診断を実施し、職員の健康管理に努めています。保有資格に配慮して職員を配置し、向上心を持っていただけるよう考えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、受講後は報告しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の際、交流の機会を設け、情報交換を行っています。また、他の施設を訪問する等もしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者や家族等の相談・不安について聞きだせるよう、雰囲気づくりに努め、希望に沿った対応ができるような話し合いに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者や家族等の相談・不安について聞きだせるよう、雰囲気づくりに努め、希望に沿った対応ができるような話し合いに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に十分な説明と話し合いを行い、本人と家族の希望に沿えるような対応に努め、今必要としている支援を見極めながら、場合によっては関係機関との連携を図る等、他のサービス機関に移行する支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの得意分野が異なるため、その人に合った物を生活の中で探し、本人の負担にならない程度に手伝ってもらえるよう努めています。家事や軽作業を職員と一緒にを行い、コミュニケーションをとりながら、共に楽しく生活できるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	日々の暮らしぶりや健康面等を随時報告す ると共に、ケアの内容を説明しながら、家族 の思い・意見を聞きだし、家族の協力も必要 なこと等を伝え、共に支え合う関係づくりに 努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等の訪問の際は、再度面会に来ていた だけるように声がけを行い、雰囲気づくりに 努めています。	友人や知人、近所の方等がいつでも気軽に 訪ねてくることができるよう、日頃から声がけ する等、雰囲気づくりに努めており、時間を気 にすることなく、ゆっくりと気兼ねなく、会話が できる環境を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	認知症のレベルの違いから入居者同士のト ラブルがあり、職員間での情報交換を密に してトラブルを回避し、良い関係が保てるよ う話し合っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に応じることを話して います。入院した場合は、早期に見舞いに 伺ったり、家族と連絡をとり、また、関係する 医療・福祉の関係者とも情報交換を行って います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居者が思いや希望を日常の会話の中で 遠慮なく話していただけるよう声がけし、実 現に向けて取り組んでいます。一人ひとりに 合わせた起床・就寝時間があり、個人の生 活スタイルを尊重した支援を行っています。 また、家族等から情報収集を行っています。	利用者の思いや意向については、本人をよく 知る方々からも情報を得ており、全職員で情 報共有しながら、利用者一人ひとりに合わせ た支援方法を考え、日々の支援に活かされ るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	センター方式を主に利用し、家族や本人等 より、生活歴等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	生活のリズムや体調の変化、個別の有する 力等の把握に努めて、職員間で情報を共有 しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で困っている事がないか、さりげなく聞きだせるよう声がけしています。入居者や家族の要望・意見等を聞き、入居者本位の計画作成に取り組んでいます。職員間で課題に対する目標を明確にし、対応の結果を報告し合っています。	担当職員による利用者毎の定期評価に、全職員の日々の支援での気づき、また、家族の意見や要望等も反映させて、介護計画を作成している。職員は日々のケアを通して、利用者の状態に変化が無いかに注意深く観察し、随時、見直しができる体制を整えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に毎日記入して、それを職員が必ず目を通して、情報を共有しています。職員会議の際には、ケア会議も行い、介護計画を見直し、それに基づいて支援しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	冠婚葬祭等、必要に応じて送迎の支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して、地域の民生委員や駐在所より参加いただき、情報交換を行い、事故等の際に協力いただけるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、または必要に応じて、本人及び家族が希望するかかりつけ医に受診できるように支援しており、その都度、結果の報告と今後の対応について話し合いをしています。	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。受診結果については「こころしんぶん」等で家族に報告し、遠方の家族も安心できるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が日常の健康管理を行っています。また、看護師が不在の日でも同一の対応ができるように、介護職員との情報交換も密にし、支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や連携体制を確保しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、医療機関へ受診し、今後の対応について家族と話し合いを行っています。	重度化や終末期への対応については、訪問看護ステーションとの連携により行われている。また、利用者の重度化や終末期の対応については、入居時に文書で説明し、ホームの方針を明確にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	秋に応急処置、救急救命の研修を予定しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で、1回は夜間を想定して訓練しています。特に、両隣に対しては協力を得られるよう働きかけています。	地域住民や消防署等に参加いただき、職員と利用者が一緒になって避難訓練に取り組んでいる。また、災害発生時に備えて、米や缶詰等の食料の他、飲料水、反射式ストーブ、カセットコンロ、寒さをしのぐための物品も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように心がけながら支援しています。入居者の個人情報等については十分に注意し、業務を行っています。	是非を問わず、まずは一度利用者の思いを汲み取ることが本人の落ち着きを取り戻せるものであるとして、支援に取り組んでいる。利用者への声かけや対応については、職員の気づき等を反映させ、ホーム全体で日々の確認や改善に向けた取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりとコミュニケーションを密にすることで、本人の思いや希望を理解し、また、自己決定ができるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日やレクリエーション等、予定は立てていますが、無理に参加を勧めたり、しつこく声がけせず、個々のペースを大切にしながら行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は入居者に選んでいただき、衣服、整容の乱れにはさりげなく対応しています。また、月1回、美容院の来訪があり、本人や家族の希望にて行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に苦手なものがあれば個別に変更し、食欲を促しています。また、できる事は本人の負担にならない程度に手伝っていただいています。食べこぼし等、本人が気にしないように、さりげなく支援しています。職員も一緒に食事をとっています。	管理栄養士に依頼した献立表により、職員が当番制で調理しており、利用者個々の希望や好み、苦手なもの等を参考に提供している。また、利用者の誕生日には、予め職員が飾り付けの好みを聞いて、手作りのケーキでお祝いしており、利用者や家族からとても喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の記録と、一人ひとりの状態・習慣等を把握し、1日に必要な量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者への声がけや一部介助にて、口腔内の清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	訴え時や定時誘導で排泄の支援を行っています。また、本人が失禁等を気にしすぎないようにさりげなく交換したり、プライバシーに配慮しています。	毎日の状況観察により、一人ひとりの排泄パターンを記録・把握しており、必要と思われる時に、声がけ等の支援を行っている。声がけ時は利用者の羞恥心への配慮や、言葉遣いにも注意し、その状況に合わせたさりげない支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の確認・記録をして、便秘の改善に向けて状況等を見直しています。また、医療機関へ報告し、下剤等の調整を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴の他、本人の希望に合わせて対応しています。入浴時の状況の観察と、職員間で入浴習慣・好みを把握し、入居者が入浴を楽しめるよう支援しています。	基本的には週2回としているが、特に入浴日を決めておらず、毎日入浴できる体制をとっている。1対1の入浴介助を基本とし、夏場はシャワー浴も利用しながら、利用者が快適にホームで生活できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、個々にレクリエーションや食事準備等、活動を無理のない程度に行い、適度な疲労感が持てるよう支援しています。また、眠剤の変更や不眠の話し合い等を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬等がないように、職員間で声がけや名前の再確認を行っています。薬の変更時には記録と、全職員に伝わるまで申し送りで報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式の活用と、日々の生活を観察し、把握に努めています。また、一人ひとりの得意とする事、楽しみとする事等を把握し、充実した生活が送れるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	随時、入居者の希望に沿って外出先を決め、対応しています。また、その際、本人が不便さを感じずに楽しめるよう、対応に気を付けています。	月初めに外出日を決め、利用者の希望を聞きながら行き先を決めている。ホームでは利用者の身体状況を第一に考え、移動距離や移動方法、途中のトイレ休憩等も考慮した支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等の場面で、入居者に支払いの行為を行っていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って対応しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の音量・明るさには常に配慮して、不快のないように努めています。また、入居者からも気軽に訴えてもらえるよう声がけをしています。また、入居者と一緒に、季節毎にホームの飾り付けを創作しています。	ホールの壁は明るい白で、扉等は木目調、天井も高く、全体的に明るく、清潔な印象となっており、利用者が思い思いの場所で寛ぐことができるよう、ソファも設置され、家庭的な雰囲気となっている。また、利用者と職員で作った「立佞武多」のちぎり絵の大作も飾られており、季節を感じることができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が一人になりたい時、気の合う方同士で過ごしたい時等、過ごせる場所があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりに合った居室づくりをするために、使い慣れた物や好みの物を家族の協力を得ながら設置し、心地良く過ごせるように工夫しています。	各居室には備え付けのクローゼットと利用者に合わせたベッドがあり、入居の際には、テレビや布団、食器、家族の写真、人形、位牌等、できるだけ馴染みの物を持ってきていただき、家庭的な雰囲気づくりができるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の混乱や行動の失敗の原因を探り、自立した生活を送れるよう話し合っています。また、入居者の不安・混乱等のない環境づくりに努めています。居室の目印は一人ひとり違う物にしています。		